

議 事 録

会議の名称	(仮称) 中根・金田台地区小学校開校に関する報告会
開催日時	令和4年11月19日(土) 開会 14:00 閉会 15:00
開催場所	桜総合体育館
事務局(担当課)	教育局 学務課
出席者	地域住民 24名 事務局説明者 教育長森田充、次長飯泉法男、次長久保田靖彦 学び推進課課長岡田太郎、学務課課長下田裕久、学務課課長補佐川又文江、 教育施設課課長補佐大口勝也、教育施設課係長草間匡人、 教育施設課主事鈴木凌
会議次第	1. 開会 2. 教育長あいさつ 3. 職員紹介 4. 説明事項 (1) 通学区域について (2) 建設概要について (3) スケジュールについて (4) 新設校開校後の栗原小学校について 5. 質疑応答 6. 閉会
1 開会	
2 教育長あいさつ	皆さんこんにちは。教育長の森田と申します。本日は大変お忙しい中をお集まりいただきましてありがとうございます。また日ごろから教育に対して様々なご支援、ご理解いただいておりますことを心から感謝申し上げます。ありがとうございます。このたび、児童生徒の増加ということに対しまして、(仮称)

中根・金田台地区の小学校を令和8年4月に開校する予定になっております。この新校の学区につきましては、学識経験者、それから、保護者や地域の代表の皆様、それから学校関係者にお集まりいただきまして、私たちがこういう学区ではどうだろうかという諮問に対しまして、慎重なる協議、アンケートをとりながら協議をしていただき、審議をしていただきまして、今日お示ししますような答申をいただきました。今日の説明はその答申に基づいて、今後を考えた場合、こうなりますということを皆さんに報告させていただきたいと思っております。中根・金田台地区ですね、TXつくば駅からも近く、自然も豊かで、商業施設もだいぶ整備が進んできて、ますます住みやすい、良い環境になりつつありますので、今後も人口増加ということが見込まれているところです。子どもたちの教育というものを考えて、できるだけ良い教育をできるような環境を整えていくということを考えています。新校についても、安全安心というところをまず筆頭に、子どもたちが幸せになれる教育を実施できるように、最善の努力をして開校を迎えたいというふうに思っているところです。つくば市教育大綱というのを皆さんもご存知かと思いますが、その最上位目標が一人ひとりが幸せな人生を送ることというものにしております。私たちはそういう子どもたちが今も幸せを実感し、そして未来も幸せに生きることができる、そういう力をつけることができるということを大きな目標にして、これからも教育の充実、教育環境の整備に尽力したいとそのように思っております。既存の九重小、栄小、そして栗原小学校も、伝統のある大変素晴らしい学校だというふうに私たちも思っておりますので、この学校も合わせてこれからも教育の充実のために努力したいというふうに思っております。今日報告します答申の通りで学校を建設して、学区を決めていきますと、栗原小学校が大変小さな学校になってしまうということがありますので、だいぶ心配の声を午前中もいただきました。そういう事は私たちも考えているところですが、答申をいただいた学区で考えた場合にはそうなるということをございます。栗原のことについては、私

たちもこれから十分に検討し、それから考えていきたいと思しますので、皆さんもいろんな新しい学校、既存の学校についてもご不安、ご心配について、忌憚のないご意見を頂戴しまして、私たちはそれらを真摯に受け止め、誠意を持って対応していきたいと思します。これからの報告について、ご意見よろしくお願ひしたいと思します。よろしくお願ひします。

3 職員紹介

4 説明事項

(スクリーンを使用し説明)

5 質疑応答

栗原 男性:孫と一緒に住んでいますので、その孫がいずれは栗原小学校へ入学する予定だったんですね。ですので今日は伺いました。多分、ここにいる皆さんも特に栗原小学校を予定している方は、非常に不安な気持ちがあるのではないかなと思します。それはやはり複式学級ということで、非常に小さな学校、確かに小規模校ならではのということもあるかと思うんですけども、やはり現代の教育というのは、なんといっても表現力とかコミュニケーション力とか、いわゆる社会性ですか。そういうものの対応というのが非常に重要視されるのではないかなと思します。そういう場合に子ども同士の活動、あるいは先生と子ども、ですから地域の教育力ということではなくて、学校内の子ども相互の関わり合い、そういう中で、社会性は培われていくのではないかなと思します。そういう意味では、複式学級という学校は非常に不安であるという事はやはり皆さんも共通した思いだろうと思します。特につくば市は、これまで私の記憶では、小規模校をなくす小中一貫だったと思しますけれども、特につくば市さんの方では、いくつかの学校が統廃合

されて小中一貫ということがなされてきたと思うんです。大形小とか筑波第一小学校とか廃校ということで、それもやはり小規模校ならではの特色はある学校だったと思うんですけれども、それ以上にやはり現代社会に必要な社会性とか、いろいろそういう問題を加味して小中一貫ということで進んでいったのかなと思うんです。ですから、そういうつくば市の歩みからすると、新たに複式学級の学校を作る残すというのは、やはりちょっとこれまでの考え方からするとどうなのかなと思うんです。それから栗原地区の人たちの意向を受けて、学区審議会で話されたと思うんです。そういう意向を受けて、こういう形の答申が出てきたのかなと思うんですけれども、やはりその時点では栗原地区の人たちにとって、小学校残してほしいというのは、やはり長い伝統がある学校ですから、誰もが共通して思うところだと思うんです。ただこうした数字を見て、複式というような数字を見て、果たして新たに栗原の人たちが、それでも小学校を残したいと思うかどうか、それはまた別問題かと思うんです。これまでは残したいと思う気持ちとこういう数字を見て、じゃあどうするのか。子どもたちの将来を見たときどうするのかというときには、また別の意向というか、考えが出てくるかなと思うんです。そういう意味では、本来でしたら今度新たに入られる保護者の方に直接アンケート、数字をご覧いただきながらアンケートとってみるとかね。そういうことも必要になってくるのではないかなと思うんです。それからもう一つ。個人的なあれなんですけれども、そうすると、子どもを連れて家を離れて別に構えようかなと、若い人が地域から離れていく可能性もありますよね。やっぱり自分たちの子どもをどう教育するかっていうことを考えたときに、ここじゃなくて別なところに行こうかなということになる可能性も出てくるかなと思うんです。ですから、様々なまだまだ検討していただかなければならない問題があると思うので、ぜひ今後とも皆さんの情報を公開してもらって、地域の方の声なども充分反映する形で学校建設に当たっていただければありがたい

などと思います。以上よろしく申し上げます。

学務課課長:ご意見ありがとうございます。今ご意見があった通り、この答申というのは、学区審議会地域の方のご意見、区長さん達にも出ていただきますし、保護者さんの代表の方、各学校の保護者さんにアンケートとっていただいて意見をもとに、今回答申が作られて、皆さんに報告させていただいています。その中で、栗原小学校については、近くの方は学校に安全に行けるから残して欲しいというご意見がありまして、この答申が出てきました。その当時は出てきたときに、この学区の答申案で何人になるかということもお示しさせていただいて、その時に当時一年生が1人になりますよというお話もさせていただいてはあります。ただ今回は、もっとデータが新しくなった部分もありますし、その時のデータを見ていた人がいらっしゃるのといらっしゃらないのがありますし、今回は報告という形で、皆さんに改めて見ていただいて、皆さんに共通認識を持っていただきたい。先ほどスケジュールの中でも説明させていただいた通り、今後もまた保護者説明会、地域住民説明会をやっていきますので、その中でまた皆さんの意見をいただきたいなどと思います。先ほどもお話しありました通り、令和8年4月に開校の予定です。今、資料にあります通り、令和10年には何人ですよと書いてありますが、令和10年の一年生は今0歳です。だいぶ先になりますので、お子さんがいる保護者さんでもまだ先かなという認識がある方もいらっしゃいますし、もう自分の所のお子さんのことと思われる、認識の差が少し、皆さん同じ気持ちになるかどうかということもあると思いますので、我々も今後は説明会を開きながら、皆さんのご意見をいろいろ聞いていながら、検討していきたいと思いますのでよろしく申し上げます。

教育長:今、説明した通りなんですけれども、数字も示した上で、審議会の方で、アンケート等も取っていただいて答申が出てきたということですから、私たちとしてはその答申に従って学区を決めた場合には、小規模校になって

しまうということで、できるだけ小規模校のデメリットではなく、メリットを最大限に生かすようなことを考えると、こんなことが考えられますねということをもとに提案させていただいたというところです。それから、小規模校でありながらも、もう少し人数を増やしていったほうがよいということも考えられますので、その場合に小規模特認校という考え方も活用できるのではないか、それも提案させていただいたのです。ですから、小規模校のまま、このまま残したいと、皆さんの意見がまとまるのか、それとも小規模特認校として少し人数を増やしながら残したいということになるのか、それとも栗原小学校は人が少ないから、みんなで新しい方の学校に行きたいということになるのか。それは、これから皆さんのご意見をしっかり承りながら、決定していきたいということです。今日の案が最終決定ということではありませんので、これから皆さんの意見を聞きながらやっていきたい。ただ、ご心配いただいたように、社会性ということについては、小規模校であっても、それが可能になるような教育の工夫を私たちはするつもりであります。そういう準備はきちんとありますので、そういうことも含めてですね、これから皆さんと共有して最終的な案を作っていければと思います。よろしくお願ひしたいと思います。

柴崎 男性: これまでも議論があったかもしれませんが、新しい学校の学区が示されていきましたけれども、そこに通われている子どもたちは、基本的にそちらに行くことになるのか、あるいは選択という形になるのでしょうか。在校生とかこれから入ってくる子とか混じって家族構成されている家もありますので、その辺決まっていることがあれば教えてください。

学務課課長: 現段階でのお話をさせていただきます。今答申という形で出てきた案が、このまま確定した場合でお話しさせていただきます。今後のスケジュールも含めてお話しさせていただきます。今、新しい学校を令和8年4月に開校する予定です。そのため令和7年11月、ちょうど今頃になりますが、

この通学区域案内にお住まいの新1年生から新6年生、こちらの保護者様には令和8年4月からは新しい学校が指定になりますよという就学通知を出すようになります。その就学通知をお出しする関係で、その令和7年の9月の議会で学校設置条例という、学校の名前を承認していただいて、その後、9月もしくは10月の教育委員会で通学区域の規則ということで、新しい学校の通学区域はこちらですよという承認をいただかないと、11月の就学通知をお出しできないので、そこが最終という形になります。来年香取台と研究学園に小学校ができるようになってるので、同じように就学通知が出ます。それに伴い、今月11月1日で学区外の基準というものを一部変更しました。一部変更したのが何かといいますと、同じように、島名小学校と学園の森義務教育学校が母体校ですので、そこの今度の新6年生につきましては、本来新設校が指定なんですけれども、今の母体校に残りたいと希望する場合には、6年生については、学区外の手続きをしていただければ在籍を考慮しますよという基準を直しました。新6年生になる場合、今のに当てはめると6年生の場合は、今の栗原小、九重小、栄小に残れるということになるかどうかです。なぜどうかといいますと、学校もまだ本当の新しい学校の学区が決まっていませんので、学区が決まってからその学区外の基準をどうするのかということも、我々考えてお出しします。今の現状として、今後新しく開校する学校についてはそのような基準で見直しをしております。新1年生から新5年生は原則的に新しい学校に行ってください。ただ6年生であっても今の栗原小、栄小でないところに行っているお子さんもいらっしゃいますし、そういった方は新しい学校に行くのか、また違う学校を希望するのかということになりますと、それは他の学校と同じように学区外の申請をしていただいて、基準に基づいて審査いたしますので、その時にまた就学通知をお出しするときには基準が変われば、また皆様にはご報告いたしますので、こちらは規則なり通学区域が確定してから、検討して皆さんにお知らせさせていた

できます。

柴崎 男性:保護者説明会のときに説明がありますか。

学務課課長:保護者説明会は、規則、通学区域が決まる前になると思いますので、その段階では基準がこうなりますという事はお伝えできないかなと思います。

春風台 男性:将来的には桜中も移転になるというところで、学校の教室数であったりとか、施設の数であったり、どういう施設が作られるのか、そこら辺のスペックというのはいつぐらいに確定するのでしょうか。例えば、生徒数が非常に多くて、それぞれの遊具が足りないとか先生が目が行き届かないとか、そういうことも心配なので、そういうことであれば、今栗原に就学しているのであれば、栗原のほうに残ったほうがいいよねとなるかもしれないですし、そこら辺も1つの学校を選ぶ要素なのかなと思うんですけども、そこら辺はいつぐらいにお示しいただけるのかということをお聞きしたいです。

教育施設課課長補佐:新しい学校につきましては、設計を行っているような状況です。令和4年度、5年度で基本・実施設計を行いますので、その中で検討していくところとなりますが、当初で規模的なところは、普通教室で25クラス程度、特別支援教室で3クラス、その他特別教室というところで、理科室とか音楽室、図工室といったものを考えております。またその他に多目的室を各学年に1教室作りますので、もし子どもが増えた場合にも対応できるという形になります。また、配置計画には、桜中の移転スペースも入っています。子どもたちが増えても大丈夫なように増築スペースという形で当初計画をしておりますので、今後子どもたちが増えてくるということでも、ここで対応できるかなと考えております。

学務課課長:すみません、先程の質問でどちらかを選択できるかということですが、新しい学校の通学区域がこちらと決まった場合には、こちらの

学区は新しい学校ですよ。あと今の学校を選べるというような選択を選ぶような地域というのは考えておりませんので、指定の学校に行っていただくような形にはなりません。

教育施設課課長補佐:桜中の今後の対応だと思っておりますけれども、桜中もご存知の通り国指定の史跡内にありまして、増改築が難しいということもありまして、将来的に増築や老朽化による改築が必要になった場合、その場合には、中根・金田台区の小学校への移転を考えております。時期が気になる場所ですけれども、今時点では未定です。今後生徒が増えてきてということも考えられますので、建物の老朽化の状況や児童推計を注視しまして、今後設計していきたいと考えております。

流星台 男性:今、既存の小学校には児童館が併設されていると思っておりますけれども、新しい学校には児童館は設置されるものでしょうかということと、新しい地区の流星台とかさくらの森って公民館みたいなものがないので、地区交流センターみたいなものが併設されるのか、計画があれば教えていただきたいかなと思います。

教育施設課課長補佐: 1つ目の児童クラブなんですが、土地の建設予定地の用途制限もございますので、その辺は敷地内に建設可能かどうかも含めまして、児童クラブ担当部署と検討して参りたいんですが、当然お子さんがいらっしゃるれば児童クラブが必要だと考えておりますので、その方向で担当部局のこども部になるんですけれども、そちらと検討していきたいと思います。あともう1つ、交流センターですね。学校の開放スペース、そういったものがあるのかというところなんですけれども、地域に開かれた学校づくりということを目指しております。令和5年4月に開校する研究学園小学校と香取台小学校についても図書室や家庭科室等の特別教室につきましても、開放可能な配置計画にしております。同様に中根・金田台地区の小学校につきましても、開放可能な配置計画ということを設計の中で検討していきたいと思

ます。補足ですけれども、児童クラブは作る方向です。

男性:やはり、栗原地区ではないんですけれども、お話を聞いていて、栗原地区のことが非常に懸念されます。これまで学校残したい残したくない希望を聞かれて話し合いをされたということですから、先程の方と同じように、このデータを見せたときはかなり小規模になりますよと言って、いいですかということになるのではと思うんですけれども、これまで代案というか、当然どこかの学校に通わなければいけないんですけれども、その代案を示されたことがありますかということをお聞きしたいです。例えば新設校に吸収されますとかあるでしょうけど、秀峰筑波もバス出てますから、そういったところにバスで行くとか隣の学校に併合するとかいろんな案を検討したかということを確認したいです。

学務課課長:オプション的というよりも、今回新しい学校を作る形なんですけれども、新しい学校の学区を考えたときに、今の栗原小、栄小、九重小3つの学区にまたがった地域が開発地域でしたので、この学校を作るときの学区どうしますかっていうお話をさせていただいたときのその中で、栗原小学校の地域の方々、春風台ほぼ栗原の学区になってますので、そこ以外に栗原小学校のここに入れて欲しい、栄小も上境を入れてほしいという話があったので、どんだんご意見が出てきた中で、その栗原小学校の中で栗原だけは近いから残してほしいという意見があって、審議会の中で答申という形が出てきた所ですので、それに対して我々から少なくなるから、こうしますという案を出したわけではないんですね。新しい学校を作るにあたって、学区をまず案としていただきたいので、その話し合いの中でどうですかというお話をし答申をもらった。その結果として栗原小を残してもらいたいんですというお話をもらったという段階なわけなので、このデータを先ほどもお話したように審議会の中で、10年ごろに新一年生が1人だけになりますよ、こういう学校になりますよ、というお話をさせていただいて答申をいただきました。

ただその時のデータを見ている方と見ていない方がいらっしゃいますし、改めてこのデータが最新になって見られる方が今いらっしゃいますし、本当にそうになったらどうなるのかという方もいらっしゃるので、審議会のときには保護者の方もアンケートとっていただいて、近くだから残して欲しい、どうしていいかわからないという方もいました。新しい学校にして言う方はいらっしゃらなかったんですね。今回午前中やったときに保護者さんが複式になるようなことであれば、学校としては統合するとか選ぶとか選択肢を考えてほしいというような意見を頂きました。そうすると答申していただいて、審議していただいているときの意見と午前中の方の意見と少し違ってくる部分もあります。それはお一人の方がそういう意見もありますので、皆さん同じようにどういう意見があるのかっていうのを聞きながら、いろいろ検討していかなければならないのかなと思います。その中で我々がオプションを出したという事はありませんので、初めていただいたということなので、これからいろいろ意見を保護者さん、学校というのは、地域の方も関わっているので、地域の方からも意見をいただきたいと思っています。

栗原 男性:そうしますと、資料の4ページありますよね。4ページの上の行と下の行で通学区域が、元の段階で春風台、流星台、さくらの森とありますが、下の方ではその後、上野、桜1丁目などありますよね。それは審議会の中で意見が出て、新たに追加になっていったという感じなんですか。

学務課課長:学区審議会の時に審議していただくのに、全くゼロというわけにはいきませんので、我々として最初に、今回の学校は開発地域に学校用地がありますので、開発地域が通学区域はどうですかということで考えていただくための素案としてお出ししました。それで各委員さんがいます。学校の先生とかPTAとか区長さんとか、この意見を見た後、こちらの資料で見ていただくと3ページ下に1回目から4回目ありますが、1回目に案を出しました。一ヵ月以上ありますので、それぞれ委員さんに各地域に持ち帰って、地域の

住民の意見を、こういう案が出ているけど、どうですかということを知っていただいたり、PTA さんだと保護者さんにアンケートをとっていただいて、こういう意見なんですという事をそれぞれ委員さんが持ち寄っていただいて、こういう栗原地区の方だと栗原は残して欲しいから栗原入れないでくださいとか、桜1丁目から3丁目の方は近くに学校ができると思っていたから、家を買ったので、新しい学校に学区を入れてくださいとか、皆さん委員さんそれぞれが自分の意見だけでなく、みんなの意見を代表として来ていますので、意見を取りまとめてきていただいて、皆さんそれぞれが話し合っただけの地域が増えていった。我々がこうしてくださいと言ったわけではなく、委員さんがそれぞれのご意見がありました。

栗原 男性:分かりました。それは、我々区域の問題ということで、我々の区域で十分な話し合いがなされてなかったということなのかなと思うんです。私もいろんなデータ、初めて見ましたので。分かりました。その経緯は。ありがとうございます。

学務課課長:おそらく、それぞれの委員さんがアンケートやっていたり、いろいろなことをやっていただいて、答申いただいていると思います。これを初めて見るような方もいらっしゃると思いますので、今後また保護者説明会、地域住民説明会をやって、意見をいただいでいきますのでよろしくお願い致します。

流星台 男性:先ほどキャパ的なこととお話あったと思うんですけど、つくば市って住んでいる所と住んでない所の差がすごく激しいと思うんです。今回作る所も、住民が増えてきてることだと思っと思うんですけど、先ほど25クラス想定しているということだったと思うんですが、そうすると大体一学年4クラス位。さっきのデータ見るだけでもおそらく増えていく、そうするとそういうことを考えると、何クラス位までは面積的にいけるのか。そういうものはあるんでしょうか。この先の話かもしれないんですけど、つく

ば市の研究学園って、春日学園ができて溢れちゃって学園の森ができて、学園の森が溢れちゃって、研究学園小学校中学校ができて、香取台小もそうだと思うんですけど、将来的に溢れたときに、この学区はまだ作ってないと思うんですけど、この先にも計画とかってまだ出てきたりする可能性があるんでしょうか、ていうのと、今回もそうなんですけど、情報の伝え方、私も流星台に住んでいるんですけど、なかなかその情報も拾い切れない部分もあって、今娘がちょうど0歳なので先ほど言った。令和10年に1年生に当たります。そういったのがあるというのが、たまたまホームページで見たので今日来てみたんですけど、地域の住民の方にもうちょっと伝える、自分も今回情報を仕入れきれてなかったんですけど、何か方法がないのかなと、ホームページと広報つくばといろいろな地域の交流センターとかあると思うんですけど、何か良い方法が今後あるんでしょうかということをお聞きしたいです。

学務課課長:ご意見ありがとうございます。2つお答えさせていただきますね。推計なんですけれども、確かに今、春日学園もいっぱいになって、学園の森については、推計値が4000を超えるということになって、増築でも無理だということで研究学園を作りました。今回の新しい中根・金田台地区の小学校についても、今見ていただいて令和10年まで人数が増えていきます。今後増えていくと思います。ただ増えていったとしても、研究学園とか学園の森みたく、どんと多くなるかと言ったら、そうはならないのではないかなと思っていますので、この学校ができた後、また新しい学校を作るのかという事はどこも想定はしていません。市内の学校としても、この令和8年4月の開校予定以降、今のところ何も考えているところはありません。今後それほど人数は爆発的に増えるかっていう事は無いのかなというふうにあくまで今の段階で推計としては出ております。2つ目は情報をという所なんですけれども、我々もやらなきゃいけないこともあるかと思いますが、今回についてはホームページにもお知らせさせていただいて、市報にも載せさせていただ

きました。学校さんの保護者さんにもお知らせさせていただいています。新しい区域になると、昔からあるような地域ですと区会があれば区会回覧することにもなりますけども、新しい地区で区会さんが、もしない場合は区会回覧ができないってこともありますので、我々も今の話にもありましたけれども、今回ホームページと市報に載せましたけれども、いろいろなメディアに、ツイッターとかそういったものも含めて、皆さんにいろいろ情報をお伝えできるような方法を考えていきたいと思っています。よろしくをお願いします。

教育施設課課長補佐:先ほども学務課長からもあった通り、今後の推計を注視しながら、学校の規模と先ほども言いましたように増築するスペースを確保するとか、多目的教室を余裕をもって作るとかといった形で対応するようになるかと思っていますので、今後も連携しまして推計を注視していきたいと思っています。よろしくをお願いします。

男性:新しい学校の質問というより、お願いなんですけれども、今の建設予定地の所の道が狭くて、ガードレールのほうも、東側にちょっとある位だと思うので、そこの通学を600人を超えるような学校であれば、ちゃんとした通学路を作ってほしいという事と、125号線に伸びる道に信号とか、そういったところもちゃんと整備を合わせて、学校を作るにあたって、つくば市が担当かどうかわかんないですけども、そこら辺と連携して、子どもたちの通学路を安全に確保できるような形をとっていただきたいと思っています。

教育局次長:ありがとうございます。午前部の部でもやはり同じようなご意見をお聞きしまして、やはり子どもたちの安全な登下校が最重要と考えておりますので、学校用地の西側の通りにつきましては、以前センターラインを引いてあって、ちゃんと整備されてあった道路であったんですが、かなりショートカットされる車が多いということもあって、今はセンターラインを消してしまっているということも確認しています。今後子どもたちが通うことになると、子どもたちと車が接触とかそういったことも大変心配なことで、

子どもたちの安全を第一に考えまして、歩道の整備ですとか、道路の整備を道路部局、建設部というところになるんですけども、そういったところと調整を図りながら、安全な通学路の確保に努めていきたいと考えております。よろしく願いいたします。また信号につきましてですけども、今回来年の4月に新しい学校が開校しますけれども、やはり開校に合わせて、信号の設置ですとかそういったことも警察本部と調整しまして、要望を出して設置に向けて進んでいるという状況もございます。こちらの新設校につきましても、同様に対応していきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

司会：それでは、本日は多くのご質問、ご意見いただきありがとうございました。本日の報告会資料及び質疑応答内容は近日中にホームページに掲載いたします。本日の説明内容等に関して、さらにご質問やご意見がある場合には、市ホームページの専用サイトにお問い合わせ下さい。なお、専用サイトでお問い合わせいただいたご質問等への回答は、個別回答ではなく、市ホームページ上での公表をもってかえさせていただきますのでご了承ください。

本日は、大変お忙しい中、貴重なお時間をいただき、ありがとうございました。以上を持ちまして、（仮称）中根・金田台地区小学校開校に関する報告会を終了とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

8 閉会